

印月池

渉成園の中心となるのが「印月池」である。月が東の丘から昇ってきて水面に映る様子から、「月映えの池」と意味する名前が与えられた。

庭園の敷地の約 6 分の 1 を占める池には、2 つの島がある。北側の島には縮遠亭という茶室があり、昔は小さな船で行き来していた。客は池の南端、現在の漱枕居という茶屋のある場所で船を待ち、南の島の塔にある鐘で船の到着を知らせていた。鐘楼は 1858 年の火災で失われ、再建されることはなかった。

それ以来、南島には建造物がない。木や草が生い茂る自然な風景が広がり、島とその周辺は渉成園の中でも生態系が多様な場所となっている。島の周辺の池には睡蓮が咲き、ミズアオイ (*Monochoria korsakowii*) という珍しい種類のミズアオイ科の植物が、秋に青紫色の花を咲かせる。